



リーディング企業の実践

11

顧客満足を追求める前提の一つとして、社員の生活満足度の高さを重視。「働きやすさ」を推進し、社員が安心して仕事と家庭を両立できる環境を整えている。

同社はこれまで男性社員3人が育児休業をそれぞれ1カ月間取得し、またフレックスタイト制度の活用も進めている。入社2年目以降の社員から「わくわくホリデー」（14日間の連続休暇制度）を設け、より休暇取得をし

流通

(倉吉市) 従業員数101人



年1回開催している家族交流会。昨年は運動会を開き、親睦を深めた

やすい環境を整えてい流会を開き、さまざま家族交流なイベントを通して社

員間、家族間の親睦にタイムを活用して出勤時間を1時間ずらし、企画営業部サブマネージャーの南秀樹さん(42)は第3子誕生時に1カ月間、育児休業を取得。「わくわくホリデー」の実施で仕事を誰かに引き継ぐことへの不安もなかった。「第2子の際は踏ん切りがつかなかったが、(第3子の際は)妻の負担などを考えて取得を決めた」と話す。

家事のスキルが上がったほか、仕事の仕方も見直すことができたという。以降、ほかの男性社員の取得も続いた。現在はフレックス

「男性の育児休業取得が続いたのは第1号が管理職だったというのもあると思う」と江原剛社長(45)は説明する。「規則ありきよりも働きやすさを優先して、現実に合わせて、柔軟に活用しやすいよう変えていければと考えている」と意見が言いやすい環境づくりに努めている。

規則より働きやすさ優先

住民と事業者間 再度調整会議を

淀江産廃場計画 審議会で県意向

鳥取県産廃物審議会

が18日、倉吉市内で開

かれ、米子市定工町小

業廃棄物管理型最終処分場計画に関する関係

住民と事業者間の意見調整について、これまでの経過や意見交換の内容などを協議した。

事業者の県環境管理事

り、中断した12月の誤

整合議の残りの論点に

事業者の県環境管理事

後も継続するのには当然

た、県はまだ会議がで

同審議会の田中勝会

を説明するのは当然だ

が、県としても最終処

(田中美千留)

基本計画に盛り

倉吉市中心市街地活

の総会が18日開かれ、

美術館関連など3事業 県が国交省を活性化基本計画に盛り込んでいることを承認した。フリーやワ美術館関連は「パーブルーム、クスクエア・バス通りを設け、地沿線地区暮らしにぎわい再生事業」など。面積991

台湾一鳥取 今年もチャ

運航会社 知事表敬

定

昨年秋に鳥取-台湾 化につなげチャーター便を運航し示した。鳥取県の許力暉総経理らが18日、鳥取県庁に平井伸治知事を訪ね、新年度に季節チャーター便を運航し、将来の定期便

